

1	審議会名	市民による事業評価(高齢者施策 第3回)
2	日時	平成25年5月2日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	高齢者福祉センター 2階 中広間
4	出席者	山浦健太郎TL、大谷直史STL、井上妙子委員、圓増治之委員 神尾みち子委員、柴崎琢磨委員、杉崎千代委員、中山昭雄委員 堀内吉孝委員、山野井悦雄委員
5	市側出席者	徳永高齢者介護課長、小川高齢者支援担当係長、村山高齢者支援担当係長 金子丸子健康福祉課高齢者支援係長、羽毛田真田健康福祉課高齢者支援担当係長 内田武石健康福祉課高齢者支援係長 中村行政改革推進室長、西沢行政改革推進係長、他行政改革推進室2名
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成25年5月10日

協議事項等

- 1 「高齢者福祉センター」施設視察
- 2 開 会(中村行政改革推進室長)
- 3 チームリーダーあいさつ(山浦チームリーダー)
以下、チームリーダーを「TL」、副チームリーダーを「STL」
- 4 議 事
 - (1) 前回会議録の確認
 - ・修正なく承認
 - (委員) 4月20日付け信濃毎日新聞に、4月12日に行われた本会議の第2回目の会議の様子が記事として掲載されていたが、記事中、「市側は、(家庭介護者慰労金支給事業は)現状では必要性が高いと考えるが、今後の在宅サービス充実に合わせ、縮小などを検討することが必要との認識を示した。」とあった。
自分の認識では、会議内の意見として事業は継続、又は拡大するという意見が多かったと受け止めていたが、誤って伝わっているのではないか。
 - (事務局) 記事に掲載された見解は、(家庭介護者慰労金支給)事業を評価の対象とした市側の提案理由と思われる。過日の会議では、事業を継続というご意見が多数であったと認識しているのが、今後協議を進めて行く中で結論付けていただければと考えている。
また、この記事が掲載されるにあたって、取材等を受けたことはなかった。
 - (3) 評価対象事業の説明
 - ア 高齢者福祉センター(以下、「センター」)について
 - ・資料に沿い、村山高齢者支援担当係長から事前質問に対する回答を説明
 - (質問事項) 各地域のセンターの修繕費はどの程度か。
 - (事務局) 資料をお示ししてあるが、平成24年度実績として、上田市高齢者福祉センターは178万9千円、丸子老人福祉センターは97万2千円、真田老人福祉センターは、23万4千円、武石老人福祉センターは4万8千円であった。
 - (質問事項) 利用者が年々減少しているが、その要因は何か。
 - (事務局) 施設建設当時は、施設利用として慰労、娯楽的な目的が強かったと思われるが、現在は、

娯楽等選択肢は多様化している。

誰もが長い高齢期を過ごす時代を迎え、その高齢期を健康で暮らし、自己実現を図り、生きがいを持って暮らしたいという願いを持つ高齢者が増えていると思われるが、センターは、健康づくり、学習、技能の習得等高齢者のニーズに対応できていないこと、また、老朽化による魅力低下が利用者減少の原因と考えている。

(質問事項) 利用減少の要因ともなるが、有料化し施設整備、機能充実を図ったらどうか。

(事務局) センターは、高齢者の健康の増進、教養の向上等、高齢者の様々な活動の拠点と位置づけているため使用料は無料としているが、入浴施設については特に老朽化が著しく、また、現在市内に様々な入浴施設があるため、そのあり方も含め検討が必要と考えている。

(質問事項) 地域内で小規模な談話室等があると(高齢者が)出掛けやすいのではないか。

(事務局) そのようなものが高齢者の集いの場として重要なものであると考えている。市としても、生きがいづくり、生活支援、見守り等様々な観点から身近な地域におけるサロン活動が行われるような仕組づくりが必要と考えている。

・以降、審議

(委員) 第1回会議の際配布された「高齢者福祉関係参考資料」5P、老人福祉費50億7,920万円で、高齢者福祉センター費が4,399万円とあり、一方、事業概要シートでは、上田市高齢者福祉センター事業費の平成23年度決算額として3,038万7千円とあるが、その違いは何か。

(事務局) 事業費のまとめ方が若干違うことが理由としてあるが、資料を確認し詳細について次回回答させていただきたい。

(T L) 本日、センターを視察したところだが、踏まえて審議等を行いたい。

(委員) 近年、人口減少、高齢化、また施設の老朽化が進んできている中、「公共施設マネジメント白書」を作成している自治体もあるが、施設の集約化、複合化がポイントとなっている。

センターの利用者の推移を見ると、上田地域のセンターは他地域に比べ減少が目立っているようだが、それぞれの地域で施設の置かれている状況が若干違うと思われるが、市としては集約化等についてどのように考えているか。

(事務局) まず、「公共施設マネジメント白書」についてだが、人口減少社会を見据えて、施設の集約化、統廃合等の検討に資するため、施設の耐用年数等データベース化を図る自治体が増えてきている。上田市についてもその作成を検討しているところだが、公共施設が約500施設あり、今後、現状を維持していくことは難しいのではないかと考えている中で、センターについても地域ごとに設置されているため、今回の事業評価の対象とした。

上田地域のセンターは、利用者ニーズに応じきれない等の理由で、平成13年の11万4千人を境に徐々に利用者が減少し、平成23年度には約9万人になった。

丸子地域のセンターは、生きがいや健康づくり、社会奉仕活動の拠点として活発に利用されている。10名以上の利用であれば団体として送迎も行っている。

真田地域のセンターは、年間約1万人の方に利用されている。地域にセンターがあるから利用するという高齢者も多いため、地域に支えられている施設と受け止めている。

武石地域人口約3,700人中、65歳以上が約1,100人となっている。武石地域のセンターは、老朽化のため入浴施設も使用できなく、また、近隣に市営の温泉施設もあるため、利用者数が減少している状況である。

(委員) 様々な選択肢の中、自分に合った利用形態としてセンターを利用している方が多いと思う。上田地域のセンターにしても、送迎バスの利便性がもう少し高ければ利用者も増える

とも思う。上田地域のセンターも、できる範囲で継続していけたらいいのではと思う。

(委員) まず、必要性の観点からはセンターは必要と考えている。

本日の会議に臨むにあたってこの施設を実際に利用してみたが、利用者の減少の要因が施設の魅力の低下もあるかもしれないが、実際にそうなのかと疑問も持った。

このセンターを利用する人は、受付簿に自書をする事になっているが、記入されない方も多く見受けられた。その受付簿をもって利用者数を計っていると思うが、正確な利用者数の把握がされていないのに、利用者の減少と結論付けるのは端的ではないかと思った。

また、利用者に、施設の老朽化も進んできているがどうかと尋ねてみたところ、利用料が無料であるため、不便な点はある程度やむを得ないと思っている、との意見もあった。

センターの設置目的が、低所得者や自宅に入浴施設がない方のためということならば、受益者負担として有料化していいのかという議論もあると思うが、一方ではそういった声もある。

(事務局) 利用者数については市議会でも質問をいただいた経過があり、実数について今後調査したい旨答弁した。確かに、現在の集計方法によると正確な利用者数は計れていないと認識しているので、今後、調査したいと考えている。

また、入浴施設については、指定管理者の職員が温度調節等手動で管理しているため使用者に不便をかけている点もあろうかと思う。しかし、職員も老朽化した設備でできる限りのことは行っているの、その点をご理解いただきたい。

(T L) 受益者負担の考え方は公平性という点に関わることと思うが、現在「無料」の「入浴施設がある」という点がポイントと思う。

武石地域のセンターは入浴施設がないとのことであったが、そのことで利用者が減ってきているのではないかと思うがどうか。

(事務局) 武石地域のセンターは、入浴の利用者が減り、設備の老朽化も目立ってきたため、平成元年頃に入浴施設の使用を止めた。

(T L) 入浴の再開を希望する声はないか。

(事務局) そのような声は聞かない。

(委員) センターは、各地域に基幹的に必要だと思う。

例えば、安価な回数券等を発行すれば、利用者も負担しやすく、利用者数の把握もできるのではないか。

また、近年、安価に利用できる温泉施設が方々にでき、気軽に利用することができるため、入浴施設を利用したい方はそちらを利用し、センターは余暇活動のサービスを提供するようにしたらどうか。

また、現在、ごみ焼却施設の建設が検討されているが、その建設の際にセンターを併設させ、余熱の利用等を考えたらどうか。

また、上田、丸子地域には空き店舗も目立っているため、高齢者の集いの場として有効的に活用していくことを検討したらどうか。

また、本日、現場を視察したが、図書室の図書が非常に古い印象を受けた。本の寄付を呼びかけるなどして改善したらどうか。

(委員) センターに入浴施設があることは、非常に魅力的と思う。家庭の風呂を毎日沸かすより、週に何回かセンターに入浴しにくる方が経済的という高齢者の声も聞く。

(委員) センターは必要と思うが、建て替えを検討するならばもう少し規模の小さい施設でもいいのではないか。クラブ活動等でどの程度利用されているのか。現在は、施設の規模を十分に活用されていないように思う。余暇活動は類似施設で行うようにするなど、施設を有

効的に活用する方法を検討できないか。

(事務局) 現在 33 クラブがセンターで活動し、1,143 人の方が登録している。

上田地域のセンターには利用者協議会があり、先日も総会が行われた。その場でも利用者数の減少について話題に上ったところ。

(委員) 以前住んでいた近くに、豊殿農村環境改善センターがあったが、その入浴施設も老朽化が進み、結果廃止となった。老朽化は避けては通れない問題だが、改修費用も多額に掛かることを考えると、他に効果的な方法を考える必要がある。

例えば、ごみ焼却施設にこのような施設を併設させることや、他に、入浴施設もいくつかあるので、高齢者に割引券を発行するなどの他の方法もあるのではないか。

(事務局) 確かに、一時代前は、豊殿のセンターや川西公民館にも入浴施設はあったが、現在は、廃止されている。

(T L) この施設の風呂も 2 階にあるため、改修には多額の費用が掛かることが予想される。以前は、隣接のクリーンセンターの余熱を利用し沸かしていたようだが、現在は、それも出来なくなっているようだが。

(事務局) 確かに、施設建設当時はクリーンセンターの余熱を利用していたが、現在は、それも利用しておらず、また、太陽光パネルも利用しているが設備の老朽化により効率が悪い。そのため、お湯を沸かすための光熱水費が多くなってきているのだが、設備を修繕するにも費用が掛かるため、やむを得ず現状での運営を行っている。

(委員) パソコン教室も行っているようだが、1 回 500 円の受講料が掛かると聞いているが。

(事務局) センターのクラブ活動でパソコンを利用する場合、センターの事業としてパソコン教室を開催する場合とあるが、テキスト代等の実費として徴収していると思われる。

(委員) クラブとして教室を開催する場合も、実費のみの徴収をしていると思う。

(委員) 現在、旧センターは卓球などに使う体育館として利用しているようだが、この施設と離れているため、まとまってあればいいと思うが。

(事務局) 担当課としても、センターの建て替えについて検討はしているのだが、市の全体計画の中に位置付けられるまでには至っていない。

(委員) 現在、無料で利用できる施設だが、すべてにおいて無料というのはどうかとも思うが。

(委員) 入浴だけに利用する利用者が多いのか。

(委員) 入浴しつつ、広間でゆっくりと一日を過ごす方も多いと思う。

(委員) 利用者のマナーが問われる問題も多いと聞く。

(委員) 武石地域のセンターが、近隣の公共の入浴施設ができたため、センターの入浴の再開を希望する声がないというのが少し意外な気がしたが、丸子、真田地域については、地域の方の利用が盛んであるようなので、地域ごとのにセンターがあるということは大切だと思う。

上田地域のセンターについては、地域に公共施設が多いため集約化は必要と思う。単独の建て替えは財政面からも厳しいと思うので(集約化は)進めてもらいたい。

公共施設マネジメント白書では、施設を集約する際、例えば、学校に高齢者関係の施設を集約しようとする、年齢の別の連携も必要になってくる。地域の意見を聞くために様々な機関との連携も必要になってくる。この部会では高齢者施策についてのみ議論しているが、集約化を図るとなると他の分野との連携も図る必要があるため、市には調整に係る点についてもお願いをしておきたい。

(事務局) それぞれの市町村でセンターや温泉施設を設置していたため、合併により当然施設数は増えることになった。

全体として施設の集約化は必要と考えるが、地域では各施設は必要という声も当然あ

り、なかなか難しい点でもある。

しかし、人口も減少していくので、改築時期も踏まえながら、施設の統廃合や複合化を検討する必要があると考えている。

(T L) このようなセンターは、上田市同様他の自治体でも設置されているのか。

(事務局) 県内ではどの自治体でもセンターを設置しており、事業内容も上田市と大差ない。

茅野市は、現在建て替えを進めており、長野市ではマンションとの複合の施設といったところもある。

県内の状況を見ると施設の老朽化も進んできているので、今後については検討中としていているところが多いが、センター事業の継続実施を考えている自治体が多い状況である。

センターを建て替えるとなると、国の補助制度がないため財源確保が問題となる。そのため、センター事業のあり方についての議論が必要な時期に来ていると考えている。

(委員) このセンターは、耐震化のための改修は済んでいるのか。

(事務局) 現在の耐震基準に適合しているかどうか確認し、次回回答したい。

(委員) 資源循環型施設の建設について議論されているところと思うが、施設建設にあたってこのようなセンターが振興策として建設されればいいのか、という声も聞く。

(事務局) 市側の提案のひとつとして、資源循環型施設の建設に併せて余熱を利用した温浴施設の建設ということをお話しさせていただいたことを受けて、高齢者福祉センターの建設というご意見があったのではないかと思います。

(委員) 本日施設を見学し、いきいきと施設を利用している高齢者の姿を拝見し、このようなコミュニケーションの場は大切な場であると改めて感じた。また、介護保険事業も様々展開されている中で、介護予防策として、例えば、デイサービスの入浴施設も空いている時間の有効な活用など多角的に考える必要もあるのではと感じた。

このようなセンターを利用し、いきいきとされている高齢者の姿も素晴らしいと思うが、もう少し踏み込み、高齢者が「参加者」となるだけでなく将来的に「生産者」となるような施策、例えば、長野市では企業とタイアップし、高齢者がきのこ栽培に携わることで配食サービス等に利用できる食事券を配布する事業を行っているが、高齢者が、働き、いきいきと生活ができ、収入が入り、地域でも消費が生まれる良い循環が出来あがっている。高齢者が今後地域でどう関わっていくか、大切なことだと思う。

長野県の中でも、長野市は医療費が非常に少ない。このことは、高齢者が参加だけでなく生産者にもなっているということがあるのではないかと。

「地域包括ケア会議」の中で、地域でどんなことが望まれているかも議論しているが、地域の特性を生かして様々な施策を連携させていく必要もあると思う。

この「高齢者施策」を議論している部会だけでなく、他の「青少年の育成」「地域リーダーの育成」部会とも連携させ、また、介護保険の「地域包括ケアシステム」とも連携することで、もう少し先のビジョンを方向付けできるのではないかと。

(T L) 議論も尽きないが、本日は時間となったのでここまでとしたい。

(3) 次回の開催日程について

・第5回 平成25年6月28日(金)午前9時30分から

4 閉 会